

極東國際軍事裁判所

亞米利加合衆國其他

對

荒木貞夫 其他

宣誓供述書

供述者 川原直一

自分儀我國ニ行ハルル方式ニ從ヒ先ヅ別紙ノ通り宣誓ヲ爲シタル上次ノ  
如ク供述致シマス

一、自分ノ姓名ハ川原直一デアリマス。一九三九年（昭和十四年）八月ヨリ一九四三年（昭和十八年）二月迄陸軍省高級副官トシテ在職シ恰モ木村中將（當時）陸軍次官在任間ノ殆ンド全部ノ期間ヲ東條大臣ノ下デ共ニ勤務シマシタ。

二、自分ハ副官部高級者トシテ大臣ノ命ヲ受ケ大臣官房ノ事務ヲ掌リマシタ主ナル業務ハ大臣ノ官印及省印ノ管守、公文書類（電報ヲ含ム）及成案文書ノ査閲、接受、發送、外國武官ノ應接、庶務事項等デアリマシタ。

三、木村次官ハ純武人型ノ人デ從來ヨリ造詣ノ深カツタ兵器行政方面ニ主トシテ力ヲ用フルト共ニ省内ノ調和融合ニ努メ俊敏積極的ニ東條大臣ニ對シ、黨ノ人トシテ之ヲ佐ケ從テ大臣ノ各種恒例的儀禮的事項及雜務ノ處理ハ殆ンド次官デ擔當セラレマシタ。

四、東條六將ハ首相兼陸相トナラレタ後ニ於テモ非常ニ努力ヲ以テ自ラ一切ノ陸軍省務ヲ處理セラレマシタ從テ次官ノ權限、委任事項等モ從來通りデアツテ少シモ擴大セラレタモノハアリマセン又次官ニ對シ大

臣ノ職務ノ代理ヲ命ゼラレタコトハアリマセン。

五、木村次官ハ連絡會議、御前會議ニハ一度モ出席シタコトハアリマセン又大本營會報ヤ參謀本部デ行ハレタ部長會報、兵站會報ニモ次官ハ出席シマセンデシタ。

六、局長會報ハ大臣次官各局部長間相互ノ連絡ヲ緊密ナラシメル目的ヲ以テ實施サレタモノデアツテ決議機關デハアリマセン而シテ名實共ニ大臣ガ之ヲ主寄シ細部ニ至ル迄克ク注意指導セラレマシタ。

現在ノ俘虜處理ニ關スル件依命次官通牒法廷證一九六五號▲ノ内容ハ本會報ノ序ニ上村俘虜管理部長ヨリ直接大臣ニ報告シ其ノ承認ヲ經タモノデアリマス。

木村大將ガ次官在任中局長會報デ俘虜處理ニ關スル抗議等聞イタ記憶ハアリマセン。

七、陸軍省内ノ業務ハ官制竝ニ陸軍大臣ノ定メタ處務規程ヲ基準トシテ行ハレテ居リマシタ。之ニヨレバ陸軍省業務ニ關スル一切ノ責任ハ陸軍大臣ニ在リ又省内ノ各官ハ各々其ノ擔任業務ニ付大臣ニ對シテ其ノ

責ニ任ズル如ク規定セラレテ居リマシタ。

該處務規程ニハ重要ナラザル一部事項ニ關シ次官各局部長等ニ其ノ決裁ヲ委任セラレテ居リマスガ夫ハ既發ノ條令規則規程等ノ解釋竝ニ其ノ適用等ノ恒例的事項又ハ大臣ノ方針意圖ヲ豫メ承知セル範圍内ノ事項ノミニ限定セラレテ居リマシタ。

之等モ所要ノ事項ハ適時大臣ニ報告シテ承認ヲ經ルモノデアリマス。其他ノ重要ナ事項ハ勿論總テ大臣ノ決裁ヲ要スルモノデアリマス即チ陸軍トシテ重要ナ方針計畫等ハ各々主任ノ局部デ起案セラレマスガ大臣ヨリノ直接命令ニ依ルカ或ハ豫メ大臣ノ意圖ヲ確認シタ上之ニ基イテ起案シ關係ノ局部間デ協議セラレ且最後ニ大臣ノ決裁ニヨツテ確定成案トナルモノデアリマス。而シテ其ノ間ニ於テ縦ヒ意見ヲ異ニスルトキト雖大臣ノ決裁ガアツタ上ハ軍隊内務令ニ嚴ニ示ス如ク常ニ己ヲ虚ウシテ之ニ從ヒ專心上官ノ意圖達成ヲ期スルコトガ軍人トシテ最も大切ナ服從ノ本義デアツテ意見ノ相違ニヨツテ勝手ニ職ヲ辭スル如キ個人意志ノ自由ハ認めラレテ居リマセンデシタ。

八、前ニ述ベタ要領ニヨツテ決定サレタ事項ヲ外部ニ示達又ハ通牒スルニハ公文書（電報ヲ含ム）ニ依リマスガ其ノ主ナル形式ガ三ツアリマス此ノ三ツハ何レモ單ニ其ノ内容ニ基ク形式上ノ差違ニ過ギス實質ハ三ツ共陸軍大臣ノ責任ニ於テ發スル陸軍省公文書デアリマス。即チ省令、訓令、達、命令、訓示等一般ニ達スル事項ハ大臣ノ名ニ於テ、其他一般的ナラサル個々ノ事項又ハ重要度ニ於テ次等ノ事項ハ次官ノ名ニ於テ、更ニ輕易ナルモノヤ條令ノ解釋等例ノ事項ハ高級副官ノ名ニ於テ發セラレルモノデアリマスガ何レモ其ノ發信者ノ名ガ其ノ内容ニ對スル責任ヲ示スモノデアハナク總ベテ陸軍大臣ノ責任ニ於テ發セラレルモノデアアルコトニハ何等變リハアリマセン。

右ノ中次官名義ヲ發スルモノニ依命次官通牒、次官通牒、次官照會並ニ回答ガアリ高級副官名義ヲ發スルモノニ高級副官通牒ガアリマスガ之等公文書（以上電報ヲ含ム）ノ區別モ前述ト同様其ノ内容ノ輕重ト受信（傳達）先ノ如何ニヨツテ發信者名ガ決定サレルモノデアリマス而シテ之等ノ指定ハ主務課ニ於テ行ハレ官房ニ於テ之ヲ點檢シテ居リ

マシタ。

局部長ノ名ニ於テ發スルモノハ陸軍省トシテノ公式文書デハナク外部トノ打合其他事務連絡ノ域ヲ越エルコトハ許サレテ居リマセンデシタ此種公文書ノ發信者ノ名ガ決シテ其ノ内容ノ責任ノ所在ヲ示スモノデハアリマセンコノ事ヲ明瞭ニスル爲メニ依命次官通牒ニハ其ノ前文ニ必ズ一大臣ガ斯ク定メラレタルニ付依命通牒スレト明カニ示シテ居リマス又等シク次官通牒（命ニ依ラザル）照會回答デアツテモ其ノ全部ガ次官委任事項計リデハナク大臣決定事項モアリ局長委任事項モ之ニ含マレテ居ルモノガ多クアリマス。

更ニ當時陸軍省カラ毎日平均四千通位ノ公文書ガ出テ居リマシタガソノ大部ハ各局部長ヘノ委任事項ガソノ内容デアアルニ不拘次官名義デ出スモノモアリ其ノ大部ハ高級副官通牒ノ形式ニ依ツテ居タノデアリマス又陸軍省ト各軍師團間ノ通牒、電報等ノ發信者、受信者ハ參謀長次官デアツテ多クノ場合大臣、軍司令官師團長等ノ名ハ用ヒテハ居リマセンデシタ。

- 九、陸軍省内カラ外部ニ發送スル公文書（電報ヲ含ム）及ビ外部カラ來ル陸軍省宛公文書（電報ヲ含ム）ハ一應悉ク副官部ニ到着シ副官部デハ發送文書ハ之ヲ點檢ノ上發送シ到着文書ハ之ヲ直ニ主務課ニ送達シマス。主務課ハ之ニ依ツテ其ノ重要ナモノニ就テハ前述ノ如ク大臣ノ意圖ヲ豫メ確認シタ上之ニ基イテ處置ヲ起案シ大臣ノ決裁ヲ經テ處置シマスガ然ラザルモノノ處置ハ決行後上司ノ閱覽ニ供シ或ハ委任事項等デ郵易ナモノハ全ク見セナイモノモアリマス而シテ其ノ公文書ノ發信者名ハ悉ク大臣或ハ次官又ハ高級副官ノ名義デ行ハレルノデアリマス。
- 十、陸軍省内ニ於ケル俘虜取扱ニ關スル事務ノ主務ハ俘虜管理部長デアツテ其他ノ局長モ夫々其ノ所管ニ從ヒ之ガ關連事項ニ付キ處理シ大臣ニ對シ直接其ノ責ニ任ジマシタ。
- 俘虜管理部長ニハ重要デナイ俘虜取扱事務ニ付キ相當範圍ノ委任事項ガアリマシタガ陸軍次官ニハ俘虜管理部長所管事務ニ關シテハ全然委任事項ハアリマセンデシタ。

十一、倭虜ニ關スル狀況ノ調査及通信等ニ關スル事項ハ倭虜情報局ノ主管スル所デアリマス而シテ該局ハ陸軍大臣ノ直轄機關デアツテ獨立的性質ヲ有スル陸軍省ノ外局デアリマス從テ向局ト外部トノ往復文書ハ陸軍省副官部ヲ經由スルコトナク直接ニ發受セラレルモノデアリマス又其ノ所管事項ニ關シテハ陸軍次官ニハ委任事項ハ全然アリマセン。

十二、外國武官ハ陸軍次官ノ所ヘハ儀禮的挨拶ニ來タコトハアリマスガ政治的事務的用途デ來タコトハ一度モアリマセン。



昭和二十二年（一九四七年）三月廿五日

於東京都豊島區高松二ノ十八

供述者 川 原 直 一

右ハ當立會人ノ面前ニテ宣誓シ且ツ署名捺印シタルコトヲ證  
明シマヌ

同日 於

立會人 安 部 明

宣  
誓  
書

良心ニ従ヒ眞實ヲ述ベ何事ヲモ黙秘セズ又何事ヲモ附加セザ  
ルコトヲ誓フ

(署名  
捺印)

川  
原  
直  
一

ERRATA SHEET

Def. Doc. #955

Exh. No

正 誤 表

辯護欄文書第九五五號 川原供述書

日本文五頁最後ノ行ノ次ニ左ノ文句ヲ入レテ下サイ。

前述ノ依命次官通牒ノ列トシテハ「現在ノ停務處理ニ關スル件」

(法廷證一九六五號A) 「空襲ノ敵航空機塔乗員取扱ニ關スル件」

(法廷證一九九二號) ガアリ次官岡谷ノ列トシテハ「陸軍次官ヨリ外務次

官宛回答(法廷證一九五八號) ガアリ又次官名義ト車診謀長名義ヲ發受シ

タ文書ノ列トシテハ「滿洲工作機械株式會社ヲ航空緊急整備ノ爲メに設度

件照會」(法廷證一九七〇號A) 「朝鮮ノ停務收容ノ件」(法廷證一九七

三號) 「英人停務收容ニ伴フ一般民衆ノ反響提出ノ件」(法廷證一九七五

號) ガアリマス